

2008 年度 教師海外研修報告書

派遣国：インドネシア



2009 年 3 月

独立行政法人国際協力機構兵庫国際センター
(JICA 兵庫)

後援 外務省 文部科学省 日本私立中学高等学校連合会

兵庫県教育委員会 神戸市教育委員会 社団法人兵庫県私学総連合会

運営委託先 社団法人青年海外協力協会 (JOCA) 近畿支部

兵庫セ
JR
09-001

はじめに

独立行政法人国際協力機構兵庫国際センター（以下「JICA 兵庫」という。）では、開発教育支援の一環として、開発教育・国際理解教育に関心をお持ちの現職の教員及び指導主事を対象とした海外研修を毎年実施しています。本研修は、中央レベルでは外務省、文部科学省及び日本私立中学高等学校連合会、兵庫県内では兵庫県教育委員会、神戸市教育委員会及び社団法人兵庫県私学総連合会から後援を受けています。2008年度には7人の教員をインドネシアに派遣しており、1996年度からの参加者累計は58人に達しています。

この研修は単なる海外視察ではなく、日本国内で行う事前研修・事後研修と開発途上国で行う海外研修を組み合わせ、そこで気づいたことや感じたことを、次代を担う児童・生徒、同僚の教員及び地域に、授業実践を通じて還元することを目的としています。

2008年度本研修に参加した7人の教員は、日本とインドネシア両国の児童・生徒に同じ内容のアンケートを実施し、両者の意識を比較した結果を授業に取り入れることを提案するなど、常に帰国後の授業実践を視野に入れて積極的な参加姿勢を見せてくれました。研修中も、現地の言葉を使って現地の人々と積極的に交流し、日本とは異なる環境の中で戸惑いながらも、帰国後の授業実践を見据えて様々なものを吸収しました。

海外研修終了後も、参加者間のメーリングリストなどを用いて情報交換を行い、より良い授業実践に向けて努力を続けてきました。

JICA 兵庫でも、本研修参加者がより良い授業実践を行えるように、授業で実践できる開発教育手法について学ぶ機会を提供したり、実践授業を視察のうえ助言し、海外研修の成果を効果的に授業実践に生かせるよう継続してフォローアップを行っています。そのようにして実践された授業内容は、本報告書において参考資料としてご覧いただけます。

JICA 兵庫では本研修のほかにも、JICA ボランティア経験者や JICA 職員を学校に派遣する「JICA 国際協力出前講座」及び、児童・生徒たちに JICA 兵庫を訪問して国際協力について学んでもらう「JICA 兵庫訪問プログラム」を常時実施しております。また、JICA 国際協力中学生・高校生エッセイコンテストや国際協力実体験プログラムなど、開発教育に関する様々なプログラムを用意しています。

この報告書を手にとった教員の皆様も、ぜひご自分の学校でこれらのプログラムを活用し、開発教育・国際理解教育の輪に加わっていただければ幸いです。

2009年3月

独立行政法人国際協力機構
兵庫国際センター
所長 森川 秀夫

目 次

はじめに

1. 教師海外研修概要	
1-1 教師海外研修の主旨	4
1-2 教師海外研修の目的	4
1-3 教師海外研修の流れ	5
1-4 2008 年度 JICA 兵庫実施の海外研修について	6
1-5 海外研修訪問先	8
1-6 参加者リスト	13
1-7 主要面会者リスト	14
2. 研修報告	
2-1 清 献一郎 (西宮市立神原小学校)	16
2-2 野添 洋子 (川西市立陽明小学校)	18
2-3 三好 裕子 (神戸市立東灘小学校)	22
2-4 貞松 千佳子 (兵庫県立芦屋国際中等教育学校)	26
2-5 竹岡 聡子 (尼崎市立成良中学校)	30
2-6 田尻 伸子 (芦屋市立山手中学校)	34
2-7 山中 信幸 (柳学園中学・高等学校)	38
3. 成果と課題	
3-1 海外研修を終えて	44
3-2 授業実践を終えて	47

参考資料

1. 授業実践集	
1-1 清 献一郎 『幸せって何?』	50
1-2 野添 洋子 『民族楽器「アングルン」を通して、 「インドネシア」を感じよう』	54
1-3 三好 裕子 『インドネシアを知ろう』	65
1-4 貞松 千佳子 『インドネシアも身近に感じよう!』	73
1-5 竹岡 聡子 『生きるとは何か (健康と環境)』	83
1-6 田尻 伸子 『つながろう・世界と・インドネシアと』	89
1-7 山中 信幸 『テレマカシ インドネシア ～みんなが豊かになる方法～』	98
2. JICA (Japan International Cooperation Agency) とは	105
3. 第 5 回多文化共生のための国際理解教育・開発教育セミナー 研修項目	106
4. 2009 年度教師海外修 (ベトナム) 応募用紙	107

1. 教師海外研修概要

1-1 教師海外研修の主旨

2002年4月から「総合的な学習の時間」が本格導入されました。JICAは、開発途上国における技術協力（ボランティア事業を含む。）や資金協力で培った経験、人材またはネットワークを有しており、開発教育支援の一環として、教育現場に積極的に協力していきたいと考えています。

本研修は、国際協力に関心があり、授業やクラブ活動などで開発教育や国際理解教育を実践している小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教員及び指導主事を対象に、開発途上国で国際協力の現場や現地の生活実態を視察し、今後の授業に役立ててもらうことを目的とした研修プログラムです。

兵庫県からの研修参加実績

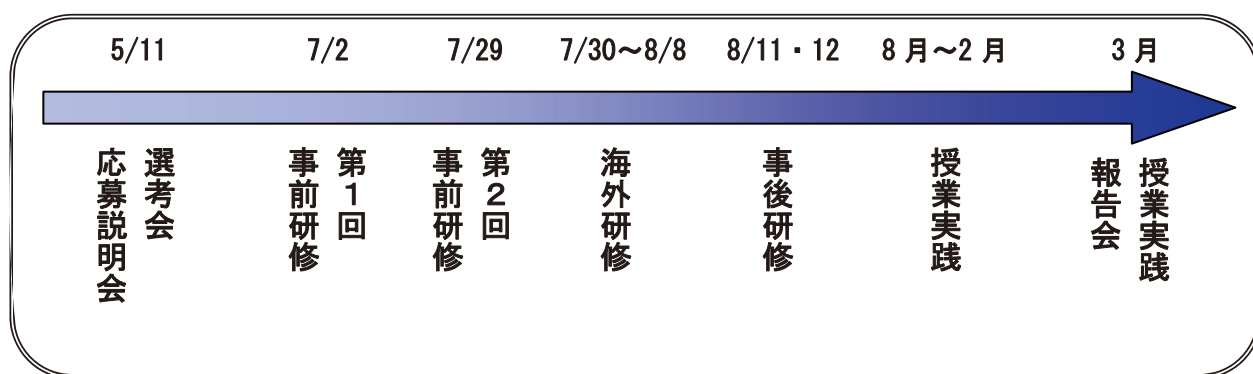
派遣年度	小学校*	中学校	高校	教育委員会事務局
1996	—	—	タンザニア (2)	
1997	—	ジンバブエ (1)	ベトナム (2)	
1998	—	バングラデシュ (2)	メキシコ (2)	
1999	—	—	—	
2000	—	モンゴル (2)	ケニア (1)	
2001	—	ラオス (2)	ヨルダン (2)	
2002	—	ドミニカ共和国 (2)	—	
2003	ベトナム (2)	ラオス (2)	ケニア (2)	
2004	フィリピン (2)	ラオス (2)	フィリピン (2)	
2005	タイ (2)	タイ (2)	タイ (1)	タイ (1)
2006	スリランカ (2)	スリランカ (1)	スリランカ (3)	スリランカ (2)
2007	インドネシア (4)	インドネシア (1)	インドネシア (2)	インドネシア (1)
2008	インドネシア (3)	インドネシア (3)	インドネシア (1)	

※小学校については2002年度から開始（2002年度は兵庫県からの参加者なし。）

1-2 教師海外研修の目的

- (1) JICA事業の視察やJICAボランティア（青年海外協力隊・シニア海外ボランティア）及び専門家との意見交換を行い、政府開発援助（ODA）による国際協力事業に対する理解を深める。
- (2) 市民団体などが実施する活動を視察し、ODAとは異なる国際協力事業に対する理解を深める。
- (3) 現地の学校視察及び教員と意見交換を実施し、インドネシアの教育事情を理解する。
- (4) ホームステイやホームビジットを通じて、現地の人々と交流を行なうとともに、インドネシアの生活・文化・社会事情を理解する。
- (5) 帰国後の授業実践に活用できる教材や物品を収集する。
- (6) 一連の研修を通じて感じたことや体験したことを基に、授業実践計画を作成し、各所属校で開発教育・国際理解教育の授業を実践する。
- (7) 本研修終了後も、開発教育・国際理解教育を継続して実施し、各所属校及び地域の教員に対して開発教育の普及を推進する。

1-3 教師海外研修の流れ



研修日程詳細

第1回事前研修：2008年7月2日（水）（場所：JICA 兵庫）

- 目的：① 参加者間の親睦を図り、現地での視察のポイントや注意点を確認することで、海外研修をより実り多いものとする。
- ② 帰国後の授業実践に向けて、開発教育・国際理解教育の概念や具体的な手法について学ぶ。

- 研修項目：① JICA 事業概要説明・教師海外研修事業概要説明
- ② 研修国事情（インドネシアの歴史や文化について）
- ③ 安全対策ブリーフィング
- ④ 過去の参加者による本研修報告及び授業実践
- ⑤ 開発教育教材の紹介（「レヌカの学び」）

第2回事前研修：2008年7月29日（火）（場所：JICA 兵庫）

- 目的：① 帰国後の授業実践をより実りあるものにするために、海外研修における目的の再確認をする。
- ② 海外研修において、渡航上の注意点などの最終確認及び現地での視察のポイントや注意点を再確認する。

- 研修項目：① 海外研修について（出発まで、帰国後の流れ、現地での活動目標設定）
- ② 渡航上の注意（安全、健康、非常時の対策）
- ③ ワークショップ「より実りある帰国後の授業実践にむけて」

事後研修（第5回多文化共生のための国際理解教育・開発教育セミナー）：
2008年8月11日（月）、12日（火） JICA 兵庫にて実施

目的： 経験豊富な講師陣から、教室ですぐに使える開発教育教材（参加型ワークショップ）の手法を学び、海外研修の成果を活かした指導案作成の一助とすることを目的に、一般公開の本セミナーに事後研修として参加した。（一般参加者 100 人とともに、本研修参加者も参加した。）

研修項目： 「参考資料3」 参照

1-4 2008 年度 JICA 兵庫実施の海外研修について

(1) 派遣国概要

国名：インドネシア共和国
(Republic of Indonesia)
首都：ジャカルタ
面積：189万km²（日本の約5倍）
人口：2億2,800万人（日本の約2倍）
民族：ジャワ族・スンダ族など
公用語：インドネシア語、その他地域言語
宗教：イスラム教（約90%）ほか
独立：1945年8月17日（宣言）
通貨：ルピア
為替レート: 1000ルピア=12.51円（2008年8月当時）



外務省 HP(各国・地域情勢)より

(2) インドネシア選定理由

兵庫県に住むインドネシア国籍住民は、822人（2007年12月末現在）である。県内の登録在住外国人としては9番目に多く、10年前（1997年）の493人と比べても年々増加しているのに伴い、学校におけるインドネシア国籍の児童生徒の在席数も増加傾向にある。

一方、インドネシア国内で日本語を学習する生徒・学生の急増や日・インドネシア経済連携協定（EPA）に基づくインドネシア人看護師・介護福祉士候補者の日本への受入れなど、人を通じた交流も盛んになってきている。インドネシアとのつながりや現状を理解・把握することは、兵庫県内の教育現場において重要であると考えられる。

(3) 海外研修日程表

2008年 月 日	曜	日 程	宿泊地
7月30日	水	伊丹 ⇒ (成田経由) ⇒ ジャカルタ	
7月31日	木	①JICA インドネシア事務所訪問(オリエンテーション・安全対策ブリーフィング)	ジャカルタ
		②インドネシア大学日本研究センター(JICA 技術協力プロジェクト視察)	
8月1日	金	③生物学研究センター(JICA 技術協力プロジェクト視察)	
		④ストリートチルドレン更正施設(現地 NGO (Setia Kawan Raharja Foundation) プロジェクト視察)	
		⑤JICA 専門家及び職員との意見交換会	
8月2日	土	ジャカルタ ⇒ ジョグジャカルタ	ジョグジャカルタ
		⑥インドネシア語教室(インドネシア文化体験)	
		⑦ホームステイ(生活状況実態調査)	
8月3日	日	⑧ガムラン音楽またはバティック製作教室(インドネシア文化体験)	
		⑨ジョグジャカルタ市内の市場及び書店視察(生活状況実態調査及び教材収集)	
8月4日	月	⑩学校視察及び日本文化紹介(京都大学東南アジア研究所のプロジェクト視察)	
		⑪ホームビジット及び昼食交流(生活状況実態調査)	
		⑫サイエンスカフェ(京都大学東南アジア研究所のプロジェクト視察)	
		⑬JICAボランティアとの意見交換会	
8月5日	火	⑭ワテス国立第一中学校(青年海外協力隊員・理数科教師活動現場視察)	
		⑮ジョグジャカルタ特別州スポーツ青年局(青年海外協力隊員・バレーボール隊員活動現場視察)	
8月6日	水	⑯ボロブドゥール遺跡(有償資金協力プロジェクト) プランバナン遺跡(草の根文化無償資金協力及び有償資金協力プロジェクト視察)	ジャカルタ
		ジョグジャカルタ ⇒ ジャカルタ	
8月7日	木	⑰JICA インドネシア事務所訪問(海外研修帰国報告会)	機中泊
		⑱スラム地域の学校及び寮の視察(現地 NGO (HIMMATA) のプロジェクト視察)	
		ジャカルタ ⇒ (成田経由) ⇒ 伊丹 (8月8日着)	